



2020.10.12 第1回いわき市中学校体育大会ボッチャ競技大会開催



個人戦で優勝した勿来一中菅野さん。努力を实らせた彼女が見せた満面の笑み。

団体戦で優勝した錦中チームのメンバーと顧問の先生。彼らの誇らしげな表情が印象的です。

個人戦で入賞し、中体連から初めての賞状を受け取った選手たち。



今年度からいわき市中学校体育大会（以下中体連）では、特別支援学級の生徒を対象に、新たにボッチャ競技を取り入れました。写真は、個人戦と団体戦で優勝した選手たちの表情です。

この表情から、目標に向かって日々努力を重ね、その成果を発揮することのできた喜び・自信を感じることができます。

今回のいわき市中体連におけるボッチャ競技は、特別支援学級の生徒にとって「学ぶ意欲（学びの保障）」をもつ素晴らしい機会になりました。

いわき市中体連の開催の趣旨は「中学校教育の一環として、いわき市内の中学生に広く運動の機会を与え、体位・体力の向上と協調性を養い、健全な心身の成長と生徒相互の親睦を図る。」というものです。今年度は新たにボッチャ競技が加わり、市内20校から特別支援学級の生徒147名が団体戦と個人戦に分かれて参加しました。



中体連でボッチャ競技を取り入れた意義



自分たちで考えた作戦どおりに行きますように!

この一投にチームの思いを込めて集中して投げます!



相手チームの様子を見て作戦を練り直しました。今度は間をねらってみます!



特別支援学級の生徒は、これまで中体連に参加していない生徒がほとんどでした。そこで、障がいの有無に左右されず誰でも参加できる競技（ボッチャ）を中体連の競技の中に設けることで、特別支援学級の生徒も中体連に参加できるようにしました。

選手たちは、目標に向かって、作戦を練り、話し合うなど、夢中になって競技に取り組みました。中には負けて悔しさを味わった生徒もいましたが、その悔しさを乗り越えたことで、さらにたくましくなりました。練習の成果が発揮でき、うまくいったときは、自然にガッツポーズが出て笑顔がこぼれました。競技に真剣に取り組んでいる彼らの姿は、とても輝いていました。



ルールとマナーを守ってスポーツマンシップで試合に臨みます。そして戦い終わったら拍手で相手を称えます。



試合前には、審判の号令で「お願いします。」と挨拶を交わしました。

戦った後は、素直に敗北を認め、相手に称賛の拍手をおくりました。



### 中体連ボッチャ競技の目標

- ① 障がい者理解の機会となり、“共に学び共に生きる社会”の啓発となること。
- ② 障がいの有無にかかわらず、社会に主体的に関わっていこうという意欲や自信の醸成につながる事。
- ③ ボッチャを通して社会との関わりをもち、生涯スポーツとして楽しんでいくことができること。

### 関係機関の御協力

- いわき市から、ボッチャの用具セットを市内の特別支援学級設置校だけでなく、市内全中学校に1セットずつ配当していただきました。多くの中学校でボッチャを教育活動の中に取り入れました。
- 地域社会からの関心も高く、企業等から優勝旗、優勝カップ、トロフィー、メダル、参加賞などたくさんの御支援をいただきました。